

平成27年度 協働のまちづくり町民会議提言書(2)  
ー各世代のニーズに応じた新イベントの提案についてー

提言にあたって

田子町協働のまちづくり町民会議では、本年6月から8月の全体会議において、「既存イベントの調査研究」をふまえ、「各世代のニーズに応じた新イベントの提案」について、年代別にグループ分けし、『夢のある、人が集まる新しいイベントを考える』というテーマを設定し、企画について話し合いました。

本提言は、具体的内容について限定しすぎないこととしながらも、例を挙げ取り組んでいただきたい事項をとりまとめたものです。

町行政においては、来年度から第6次田子町総合計画がスタートし、実施計画に基づく事業が実施されることから、来年度以降の計画並びに予算策定及び措置に当たって思慮していただきたいと考えております。

平成27年10月26日

田子町協働のまちづくり町民会議  
会長 五十嵐 昭子

## 1 「大黒森、ロッジカウベル」を活用したイベントについて

町内において、人と人が出会い、交流が生まれるターミナル的な場所や機会が無いことから、遊休施設となっている大黒森の「ロッジカウベル」を活用し、独身・既婚を問わず、町内外の世代別・世代間交流による人と人のつながりを創出し強化することを目的としたものである。

具体例を挙げると、「独身者」と「子育て中の夫婦」を対象として、独身者は出会い創出を、夫婦は情報交換の場となることを目的とする。対象を独身者だけに限定しないメリットとして、これまでの婚活イベントは独身者同士は敬遠して集まりにくかったが、既婚者に連れてこられる(紛れる)ことで参加しやすい場となり、夫婦が仲人的役割を担ってくれるのではという狙いがある。また、互いの夫婦間においては、子育ての悩みを誰にも相談できずに抱えこまないよう、悩みの共有と情報交換の場になることを狙いとし、ひいては、子育てサークルのような仲間づくりにつながることも期待されるイベントを提言するものである。

## 2 「みろくの滝」を活用したイベントについて

町の景勝地と言え、誰もが口をそろえて「みろくの滝」を挙げ、その周辺の自然も含めた景観は自慢のロケーションである。それを十分に活かすよう、自然散策を通じた「心の癒やし」を提供し、歩くことでの「魅力の再発見」を目的としたものである。

具体例を挙げると、自然散策による森林浴と管理棟周辺の芝生地でのバーベキューをマッチングさせ、自然景観を存分に活かし楽しめる内容を企画し、ストレスフルな現代人に癒やし効果を提供するイベントを提言するものである。

## 3 「鍋なベサミット」の開催について

以前、遠野市・釜石市・鹿角市・田子町の農家女性らが集まり、「北東北ナベナベサミット」という食のイベントを開催していたが、東日本大震災等の影響により現在は休止しているため、このイベントをリニューアルし復活させることを目的としたものである。

もともとこの企画は、『鍋を囲みながら夜なべ談義』という企画趣旨で始まったことから、そのコンセプトは継承しつつ、遊休施設となっている「民俗資料館」を活用し、いろりや鍋や郷土料理を囲みながら、農業者同士の情報交換や、消費者や事業者との意見交換・交流の場にもなるよう、郷土の食を通じた交流イベントを提言するものである。

## 4 「ニュースポーツ体験交流会」の開催について

4つの町民運動の一つ『健康な地域づくり』にも掲げられるとおり、誰もが気軽に参加できる健康づくり活動として「ニュースポーツ」を提案し、性別や年代、体力差に関係なく取り組める運動種目の普及を目的としたものである。

具体例を挙げると、活用率の低い「農山村広場」や「都市農村交流センター」を活用し、グラウンドゴルフやユニカールなど、子どもから高齢者まで3世代間で楽しめるスポーツに親しみながら、運動習慣を身につけ健康づくりの推進を狙いとしたスポーツイベントを提言するものである。